

中国側報告要旨・資料

1. 上海の経済発展と構造調整

上海科学院経済研究所副所長 周 振 華 研究員

1990年代以降、上海経済におけるマクロ経済効果を分析し、得られた結論は以下の通りになる。

- (1) 投資は上海経済発展のエンジンである。ピークの1996年に投資の成長寄与率は66.44%に達した。一方、上海における消費の成長寄与率は1991年以降、低下の一途をたどっている（全国平均水準の約60%に相当する）。
- (2) 労働者賃金の低下と生産分野における税制額の増加。
- (3) GDPに対する第2次産業のウェイトが1978年以降、低下しつつあり、1999年に第3次産業に逆転された。
- (4) 産業集積が上海の周辺地域（上海郊外・県）へ移転することによって、上海市内が第3次産業を中心に、周辺地域が第2次産業を中心に発展する産業構造が形成された。

経済システムの転換が上海の経済発展に及ぼす影響について、5つの効果が挙げられる。

- (1) 非公有制経済の著しい成長である。
- (2) 外資、香港・台湾・マカオの資本および国内資本（株式会社を中心に）による固定資産投資額の急増である。
- (3) 土地賃貸制度の実施を通じ、土地の経済性が再認識され、都市に潜在する土地の付加価値によって、賃貸の格差が拡大された。
- (4) 上海における金融業と不動産市場の急成長は経済成長を強く推進している。
- (5) 浦東開発と対外開放は上海経済発展の牽引役であることが明らかとなった。

実証分析から得られた結論を述べると、90年代以降の上海経済には特定の環境下で、地域経済の活性化と地域に潜在するエネルギーを刺激する経済発展システムが形成されたのである。また、発展プロセスの分析を通じ、固定資産投資は上海経済の牽引役であることが明らかとなった。現在、第2次産業と第3次産業がバランスよく発展し、上海市内経済が周辺地域（区・県）経済とのダブル成長エンジンの産業構造が形成された。

しかし、投資主導型経済には、いくつかの問題が残されており、それらが今後の持続的経済成長にマイナスの影響をもたらしているといえよう。

- (1) 投資構造の非効率性である。インフラ投資と不動産投資の比率が1992年の39.82%か

ら 2003 年の 74.57%までに上昇した。

- (2) 投資の逡減傾向が目立つようになった。
- (3) 所得と消費の増加効果は見られなかった。
- (4) 自動車、石油化学、鉄鋼、金融、不動産などの産業における成長鈍化。

今後、上海経済成長の原動力は都市発展システムの転換とイノベーションになる。経済発展の傾向としては、①経済発展のプロセスは投資と消費の二重 PUSH であり、②都市機能のグレードアップにおけるサービス化、集積化、ネットワーク化、③産業構造と産業内部組織の高度化、④経済と社会・環境の協同発展、⑤都市空間アーキテクチャのオープン型、開発型、など5つの点である。

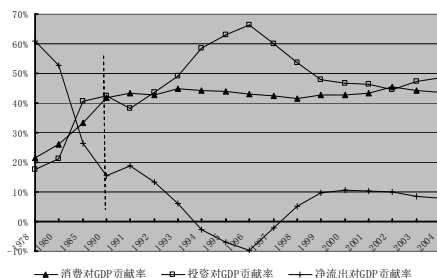
上海经济发展与结构调整

上海社会科学院经济研究所 周振华

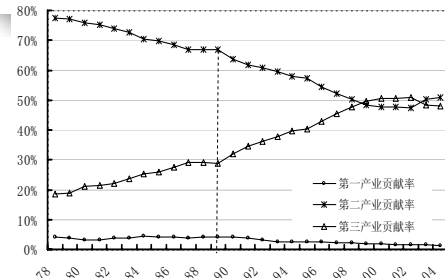
一、90年代以来上海经济增长分析

- 1、增长的宏观效应分析
- 2、增长的体制变革效应分析

(1) 增长的需求结构分析



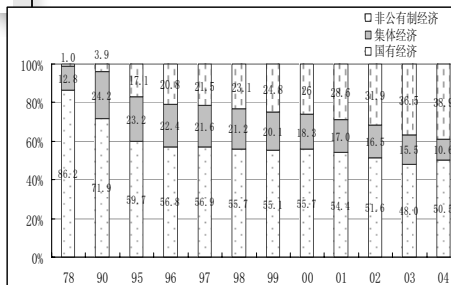
(2) 产业结构分析



(3) 增长的区域结构分析

	郊县 GDP 占全市比重	郊县财政占全市比重	郊县人口占全市比重
1994	18.50%	18.30%	39.36%
2002	25.30%	21.61%	40.22%

(4) 增长的所有制结构分析



(5) 投资的经济类型分析

历年全社会固定资产投资总额 (亿元)				
	总体	国有经济	集体经济	外商、港澳台经济
1993	653.91	419.22	124.18	61.61
1994	1 123.29	721.37	189.75	101.78
1995	1 601.79	935.92	247.11	208.30
1996	1 952.05	1 048.27	239.47	340.18
1997	1 977.59	1 148.69	257.10	367.50
1998	1 964.83	1 087.94	208.84	405.17
1999	1 856.72	986.82	227.19	325.58
2000	1 869.67	829.98	156.34	319.05
2001	1 994.73	760.58	136.81	362.25
2002	2 187.06	742.72	101.33	369.96
2003	2 452.11	811.85	116.63	468.20

(6) 土地使用权出让

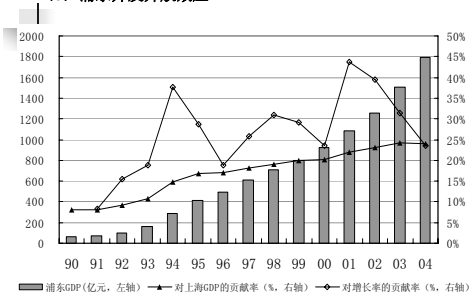
	1995	2000	2002	2003	2004
出让面积 (万平方米)	1 245.42	2 183.22	6 729.94	6 985.85	7135.60
可建面积 (万平方米)	1343.99	3502.73	5977.73	6991.36	8052.05
住宅的比例 (%)	53.61	53.33	56.76	45.04	35.87
商办综合楼的比例 (%)	12.43	1.26	8.32	10.75	13.34
厂房的比例 (%)	31.58	40.47	28.72	36.64	44.44

注：住宅楼宇和厂房的比例是住宅楼宇和厂房的面积同当年可建面积的比值。

(7) 金融与房地产市场发展的催化作用

	金融保险业对总体经济的贡献率	房地产业对整体经济的贡献率
1990	9.40%	0.50%
1991	9.31%	1.36%
1992	8.88%	1.84%
1993	9.30%	1.75%
1994	10.89%	1.98%
1995	9.97%	3.71%
1996	11.99%	4.28%
1997	13.68%	4.39%
1998	13.89%	5.03%
1999	14.31%	5.22%
2000	15.05%	5.53%
2001	12.52%	6.40%
2002	10.81%	6.91%
2003	9.99%	7.42%

(8) 浦东开发开放效应



结论

- 90年代以来上海经济发展基于一种特定的环境条件，形成了一种以激活潜在经济能量为主导的增长动力机制，体制变革对经济增长的巨大推动主要是以体制外的推动带动体制内的能量释放，以增量推动带动存量盘活，最终形成内源与外源增长一体化推动。
- 上海经济增长主要依靠大规模的投资推动，并建立在二、三产业共同推进的基础上，形成了市和区县的双引擎推动的格局。

二、存在的问题

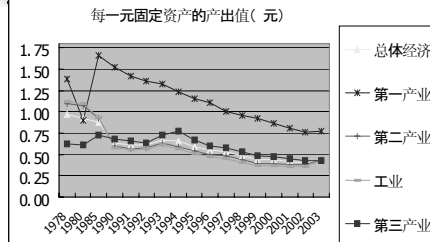
- 投资结构不尽合理
- 投资的边际递减效应明显
- 收入与消费的增长效应微弱
- 几个重要产业的增长动力趋缓

(1) 投资结构不尽合理

基建和房地产投资占全社会固定资产投资比重 (%)

年份	1990	1992	1994	1996	1998	2000	2002	2003
占比	51.39	39.82	55.97	67.06	72.34	67.91	70.10	74.57

(2) 投资的边际递减效应明显



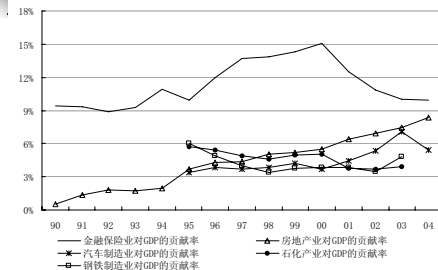
(3) 收入与消费的增长效应微弱

1999-2003年的上海统计数据显示,居民可支配收入的总平均水平一直在稳步提高,其增长速度基本上与GDP的增速协调一致。

中等收入水平以下的居民的可支配收入增长远远落后于GDP增速。

从2001年开始,最低收入户的可支配收入一直呈负增长状态。

(4) 几个重要产业的增长动力趋缓



三、上海经济增长的变化趋向

- 经济流程的新变化
- 城市能级上新台阶
- 产业结构及其组织的内含式高度化
- 经济与社会、环境的联动发展
- 空间结构变动

谢谢大家!